

福島県平田村でのあゆみ

みんなで守る

橋のメンテナンスネット

道路、橋、トンネルなどの社会インフラの老朽化による維持管理が危機的な状況です。

日本より先に1920年～1930年代にニューディール政策によりインフラ整備が進んだアメリカでは、約50年後である1980年代に橋の落橋や通行止めが相次ぎ、「荒廃するアメリカ」と呼ばれました。日本は1960年～1970年代の高度経済成長期に集中して整備され、それから50年後はちょうど「今」なのです。

地方の自治体は特に問題が深刻です。それは、管理しなければいけない橋はたくさんあるのに、技術者や技術力そして予算もなく、いつ作られたのか分からない橋も多くあるという、橋の維持管理が大変危機的な状況です。医療に例えると、膨大な患者さんがいるのに、お医者さんも医療技術も十分なお金もなく、カルテもない…という状況です。このままでは、地方自治体の社会インフラが衰退し、少子高齢化による人口の減少と共に、地方の過疎も進行し、この先社会インフラの取捨選択や地域ごと移転が迫られることになりかねません。将来の子どもたちの為にも、地方の故郷の道を守り、自立した地域づくりが重要になります。私たちは、産学官だけでなく住「民」の方と道をつくり、橋を守ることを通じて地域交流の場、現役を引退した高齢者へ地域での活躍の場を提供し、生き生きと健康に、安全安心に暮らせる地域づくりを目指して活動を行っています。



出展：土木学会 鋼構造委員会

日本大学工学部構造・道路工学研究室の平田村でのあゆみ

①協働による村づくり

平田村では「協働による村づくり」を推進しており、役場が住民に資材を提供して、住民自らが村道をコンクリート舗装する取組が長年行われていました。

②2012年6月～村民と学生による協働の道づくり

そこに我々研究室が参画し、学生と協働での道づくりが始まりました。道づくりに参加する方は年齢層が高く、もっと若い年代に社会インフラに関心を持って欲しいと考えました。また、将来、住民が橋を守る活動につなげたいと考えていました。

③2013年1月～小学生による橋の名付け親プロジェクト

そこで、小学生に橋の名付け親になってもらうことを思いました。子どもたちが名前を付けた橋なら、その家族や地域の大人が橋を守るきっかけになるのではないかと思ったからです。村内にある2つの小学校にそれぞれ名付け親になってもらい、「きずな橋」「あゆみ橋」をいう名前を付けてくれました。

④2013年6月～住民による逆水橋の高欄塗装

その後、小学校の近くの橋で住民による橋の高欄塗装が行われました。



2012年6月～



2013年1月～



2013年6月～

⑤2015年10月～簡易橋梁点検チェックシートの配布

本格的に、住民による橋を守る活動を展開するため、住民でも橋を点検することができる「簡易橋梁点検チェックシート」を作成しました。当初は村の文化祭に出展し、活動の趣旨に賛同して下さった住民の方にチェックシートを配布し、郵送で回収していました。

⑥2016年10月～子どもたちへのワークショップ

翌年も、村の文化祭に出展し、子どもたちへ橋やその材料であるコンクリートのワークショップを開催し、子どもたちに楽しんでもらいながら、その親御さんや興味を持って見に来てくれた住民の方に声がけを行い、チェックシートを配布しました。

⑦2017年～住民による橋の点検&清掃活動

そういった地道な活動もあり、2017年度の試行を経て、2018年度から平田村の橋がある全行政区、全橋梁で住民による橋の点検と排水桝周辺の清掃活動が展開されるようになりました。

⑧2022年で活動を開始して10周年を迎えます！



2015年10月～



2016年10月～



2017年7月～